

◆日本共産党の見解を紹介します。  
<http://toride.jcpweb.net>  
メール [jcp.toride@blue.ocn.ne.jp](mailto:jcp.toride@blue.ocn.ne.jp)  
◆ご意見、ご要望をお寄せください。

# 明るい取手

2012年6月3日(日)  
発行: **日本共産党取手市委員会**  
取手市井野3-19-6 TEL.72-7816

生活のお困りごとなどお気軽にご相談を

- 高木晶市委員長/TEL:74-2004
- 加増みつ子市議/TEL:74-8154
- 遠山ちえ子市議/TEL:83-8290
- 鈴木きよし市議/TEL:74-8160
- 関戸 勇市議/TEL:78-0500

## 守らなければならないものがある

# 学校減らしは、子どもの健やかな成長をおびやかすだけでなく、地域のコミュニティ・避難所などの役割もこわしてしまいます。

取手市教育委員会は、5月24日の市議会全員協議会で、2016年度までに公立小学校を統廃合し、18校のうち6校減らし12校にするという「第2次適正配置基本計画案」を説明しました。(下表参照)



## 6校を廃校にする

取手市は、中学校に続き、2016年度(平成28年度)までに公立小学校を統廃合し、6校減らすと、当初案通りに一気に進めようとしています。これまで多くの保護者や住民から反対されてきたものです。学校減らしは、子育て・教育だけでなく、地域のコミュニティ・避難所などの役割もこわします。各地で学校なくすの声が大きくなっているのは当然です。野々井中廃止には父母などが猛反対したことは記憶に新しいところです。

## 廃校して 増設、？

統合案は、地域にねざした学校を減らす一方で、統合先の学校では教室を増設するところも…、統廃合ありきで進められています。廃校して売却…？、運営費の削減など“コスト”だけを最優先させる取手市のやり方に、子どもの未来、取手市の未来があるのでしょうか。

## 決まったものではありません

## 声を大きくして、子どもと地域を守ろう

市教育委員会は「あくまでも現時点の目標であり、今後、保護者地域住民などに説明したい」としています。遠距離となる通学路など多くの問題を抱えています。統廃合が決まったわけではありません。最終的には市議会の議決が必要となります。

ごいっしょにこの問題を考え、子どもと地域を守りましょう。

### 統合案対象の小学校と概要

	現在の児童数	廃止・統合後の児童数	廃止・統合後の時期	廃止・統合後にあたって
吉田小	295人	593人	2015年4月	統合すると教室が足りなくなるので6教室ほど増設する。
小文間小	84人	廃止し、吉田小に統合		
井野小	214人	廃止し、吉田小に統合		
戸頭東小	356人	573人	2015年4月	統合すると教室が足りなくなるので3教室ほど増設する。
戸頭西小	217人	廃止し、戸頭東小に統合		
稲小	250人	369人	2016年4月	
白山西小	119人	廃止し、稲小に統合		
六郷小	157人	228人	2016年4月	通学区域が国道6号線をまたぐなど広範囲になるなどから、統合の組み合わせを含めてさらに検討する。
山王小	71人	廃止し、六郷小に統合		
藤代小	341人	588人	2016年4月	久賀小の区域に人口が増えている地区があるなどから、推移をみて、統廃合の時期が変わる可能性もある。
久賀小	247人	廃止し、藤代小に統合		

## 日本共産党取手市議団 住民らと茨城県警に要望



鈴木きよし市議、加増みつ子市議、大内くみ子県議

茨城県警察は、県の「警察施設再編整備計画」を公表(2012年3月)。この中で、取手駅の西口側(国道6号線沿)に新しい交番設置と合わせて、マスタ前にある井野交番と駅東口前にある交番を統

## 駅東側地域の交番を減らさないで

県警は、「持ち帰って検討する」と約束

合する計画を明らかにしました。

5月25日、日本共産党取手市議団は、住民ら6名と茨城県庁で、県警の担当者に対し、駅東口交番と井野交番の統合を中止し、交番の存続を求め要望書をとどけ、懇談。この中で、県警は「井野交番を廃止し、駅東口前にある交番に統合する計画である、2012年度の事業である」ことを明らかにしました。

井野交番の存続は、昨年12月市議会で「存続を求める請願が採択されている、井野団地付近は不審者も多い、子どもやお年寄りが安心できるのも交番のおかげ…」など、住民のみなさんは熱く訴えました。この訴えに応え、県警の担当者は、持

ち帰って検討すると約束しました。

申し入れには、大内くみ子県議が同席しました。

### 安全安心の街づくりを

取手市は、「駅東西自由通路」を検討しており、これが進めば、この「自由通路」が駅東口交番にかかることから、駅東口交番がなくなるのではと心配する声が聞かれます。2008年6月市議会で「駅東口交番の存続を求める請願が採択されています。安全安心の駅前、まちづくりのためにも、交番の削減は許されません。」

「取手駅西口開発」を  
考える  
シリーズ  
②(裏面)

一人で悩まずに  
生活相談・労働相談

お電話を  
電話 72-7816

弁護士無料法律相談 電話72-7816  
6月16日(土)午後2時～4時



# 「取手駅西口開発」を考える

シリーズ  
②

西口第2次開発 駅西口北土地区画整理事業

繰り返した駅前開発の失敗。これらの反省もなく、市民不在で進む「ウェルネス・タウン取手市の創造」構想。そして公有地売却への消えない疑惑…。市民の圧倒的な願いは「旧東急ビル」の再開。改めて取手駅西口開発について考えてみましょう。ご意見をお聞かせください。

東急ビル建設と西口デッキなど周辺整備を行った第1次開発に続く、第2次開発とした駅西口北側地区約6.5haの区画整理事業がすすめられています。この事業は、インフラ整備総事業費だけで177億円。2012年3月までに99億円の税金が使われました。

## 取手市の街づくりのあり方が問われている

1992年（平成4年）取手駅西口第2次開発として「取手駅北土地区画整理事業」（6.5ha）をスタート。当初、総事業費199億円、事業施行期間は1993年～2002年というものでした。その後、この「区画整理事業」は現在まで3回の見直し、総事業費は177億円に変更、施行期間は2014年3月までに延長。2012年3月までに99億円（人件費に係わる経費含まず）を執行しました。さらに事業計画見直しが迫られています。いつ完了するのか…。先の見えない事業となっています。

### 失敗の連続／「基盤整備+箱もの建設」一体の土地利用計画

当初の事業計画はインフラ整備（基盤整備）と合わせた土地利用計画として、開発区域を、北部・西部・中央部と分けし、中央部をさらにA・B・C街区に分け、「商業・業務施設、文化施設、立体駐車場等の建設を推進する」としたものでした。しかし、歴代の市長が住民不在で進めた計画はいずれも失敗。これらの反省もなく、藤井市長もまた…。

### B街区／元は、茨城県の事業で文化施設建設だった

B街区には、「美術館及び中規模ホール等を中心とした文化施設の導入を図る」とし、文化施設の建設は茨城県の事業として位置付けられていました。しかし、2006年にB街区にあった県学生寮が廃止され、その跡地（5157㎡）を取手市（当時、塚本光男市長）が、「文化芸術施設整備事業用地」として購入（4億8千6百万円）。この購入によって市有地となり、当初の県事業としての文化施設建設計画は消滅しました。

### 「ウェルネス・タウン取手市の創造」構想／商業施設も文化施設も無視

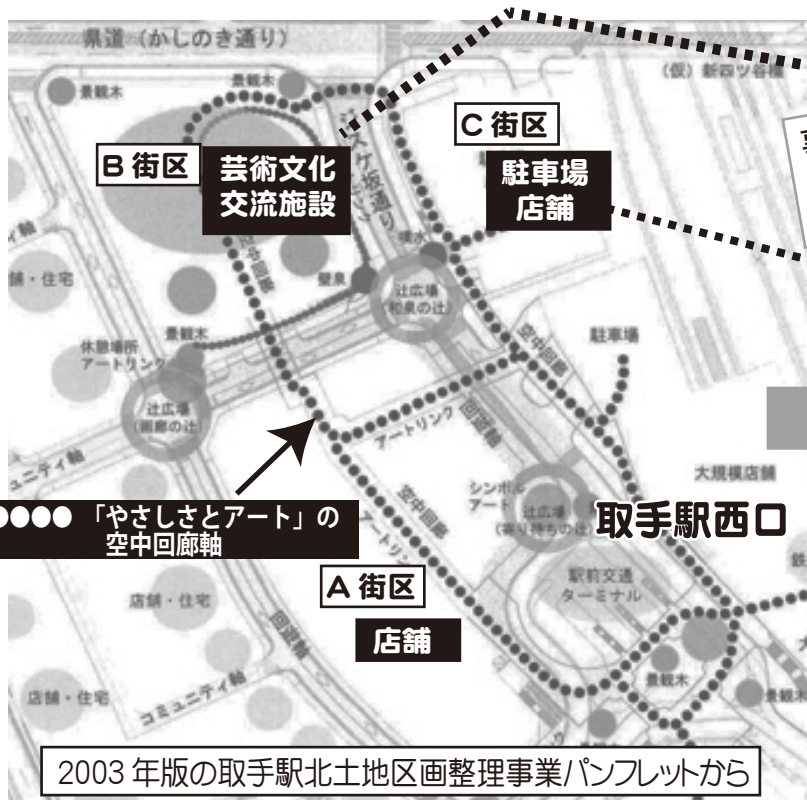
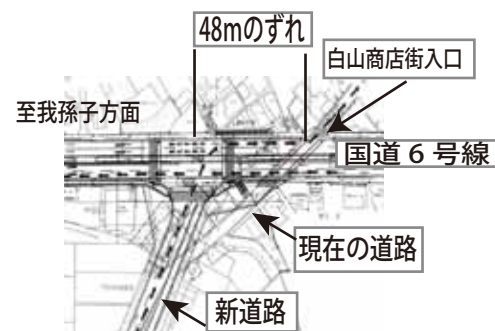
取手市が策定し知事の認可を受けた「事業計画」は、「B街区に文化施設を建設する」とあり、これまで少なくともこの「事業計画」にそって駅前の開発が検討されてきました。ところが藤井信吾市長は、取手市の街づくりの「基本計画」に違反し、「事業計画」とも異なる事業の「ウェルネスプラザ」の建設を計画。さらにC街区の公有地を民間に格安で売渡し、当初の事業計画とは別物の「医療ビル」を強行しました。旧東急ビル再開には冷たく、商業施設とするA街区に至っては、まったく見通しも、計画もありません。

ルールも秩序もお構いなく、「思いつき」で進める駅前開発、取手市の街づくりのあり方が今大きく問われています。

### 白山商店街入り口 6号国道交差点整備は安全第一に

区画整理事業による国道6号付近の造成工事が進み、白山商店街入り口の交差点工事開始がまもなく始まります。区画整理の影響から白山商店街入り口より南側に大きくずれる変則交差点となることから「危険で不便な交差点」と白山住民等から心配の声が上っています。

日本共産党は、計画当初から安全性の問題とともに、商店街の死活問題であることを指摘し改善を求めてきました。交差点工事がいよいよ目前に迫る中、何より人命を第一とする改善策が求められています。



事業計画の変更も  
基本構想の変更も  
せず、ルール無視

事業計画から逸脱  
基本構想にも違反



2011年7月版の取手駅北土地利用構想  
（駅北土地区画整理事業）パンフレットから

▼2006年（平成18年）12月

### 「第5次取手市総合計画基本構想」議決

本ゾーン（取手駅周辺ゾーン）は、本市の都市拠点として都市機能や商業・業務機能の適正配置をすすめます。特に、取手駅を中心とする地域を中心市街地と位置付け、商業・芸術・文化機能の充実を始め、市民と都市間の交流・交通機能の充実による活性化を図ります。（基本構想23ページ）

シリーズ：次号以降は、「芸術の杜構想」から「ウェルネス・タウン取手市の創造」へ、「ウェルネス・タウン構想」II C街区・医療モール建設、B街区・ウェルネスプラザ、取手駅東西自由通路計画等と続きます。